

3 サステイナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てされる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時にもCO₂を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により大気中からCO₂を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サステイナブル（持続可能な）原料です。

バイオマスプラスチックの特徴

バイオマスプラスチックは石油由来のプラスチックと異なる特徴があります。

1 植物が原料なので、石油資源が節約できます。

2 植物は地球上のCO₂を吸収するので、焼却処分してもCO₂を増やしません。

3 ポリ乳酸のような生分解性のものは、生ゴミなどの堆肥に入れると、熱と水分で水とCO₂に分解し廃棄物になりません。

4 使用済みバイオマスプラスチック製容器は、回収しリサイクルしています。

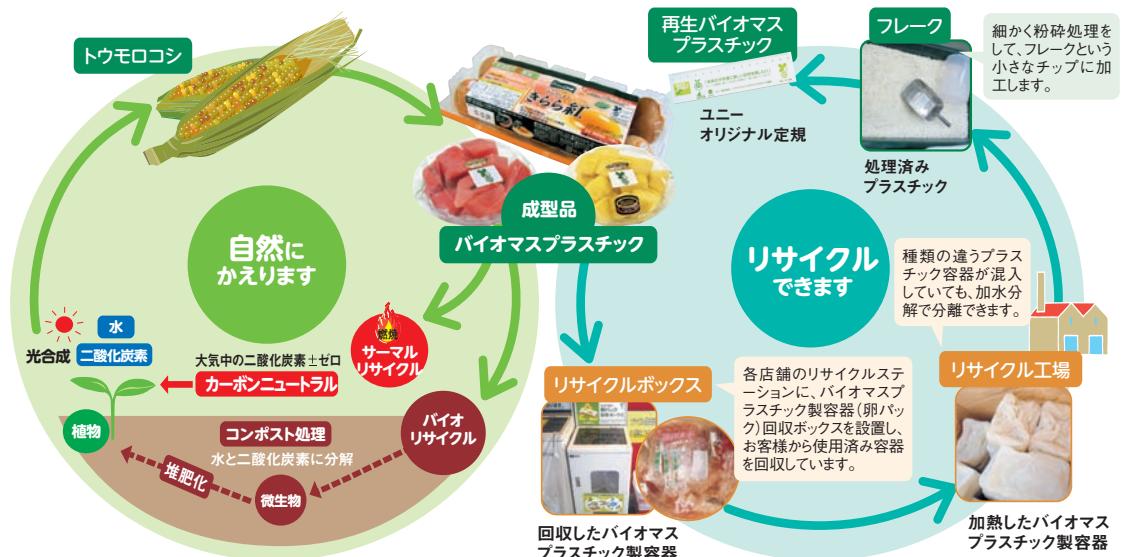


バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に還ります。

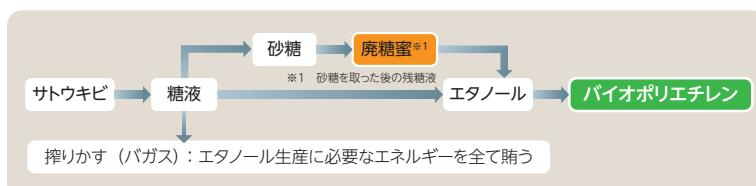
バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製の容器包装

ユニーでは2006年から卵ケース（きらら紅）と青果売り場の透明ケース・カットフルーツカップに、バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製容器を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



バイオマスプラスチック（バイオマスポリエチレン）製の容器包装

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装（液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋）に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO₂を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サステイナブル（持続可能な）原料です。



環境配慮商品ecolonに バイオマスプラスチック製容器を採用

地球環境を保全しつつ持続可能であり、地球上にCO₂を排出しないバイオマスプラスチック製容器をStyle ONEの衣料用洗剤と柔軟剤に使用しています。この容器はサトウキビの廃糖蜜を原料にしたPETとPEで、枯渇が懸念される石油の使用を抑制するとともに、生育段階における光合成によって廃棄時に発生するCO₂を相殺します。ボトル容器では重量の30%、詰め替え容器では重量の35~40%にバイオPET/PEを使用しています。これらの商品には、一般社団法人日本有機資源協会の認定を受けて「バイオマスマーケ」とユニーの環境配慮商品「ecolon」をつけて販売しています。



グループ商品企画部
バイヤー
千葉哲志



「生态
は商品
」
IPAN
バイオマス
ボトル
No.120005

